

福島経済マンスリー

4月の県内経済は、一部に弱い動きがみられるものの、全体では持ち直しの動きが続いている。

1. 平成28年4月の県内経済

項目	コメント	景況判断	
		変化方向	水準
県内経済の景況	県内経済は、生産活動の弱さが続いていることに加え、公共投資に頭打ち感が出始めているものの、全体では持ち直しの動きが続いている。		
消費動向	大型小売店販売額は、合計では13ヵ月連続して前年比で増加した。また、新車登録台数は、3ヵ月ぶりで前年を上回った。		
公共投資	公共工事前払保証取扱は、件数が3ヵ月連続で前年を上回ったものの、請負金額、保証金額とも3ヵ月連続で前年を下回った。		
設備投資	民間・非居住用建築着工は、棟数が4ヵ月ぶり、床面積が2ヵ月ぶり、工事費予定額が3ヵ月連続でそれぞれ前年を下回った。		
住宅投資	新設住宅着工戸数は5ヵ月連続で前年を上回った。内訳をみると、持家が3ヵ月連続、分譲が8ヵ月連続、貸家が5ヵ月連続でそれぞれ前年を上回った。		
生産活動	鉱工業生産指数は、前月比が2ヵ月連続で下降するとともに、前年比が4ヵ月連続で下降した。業種別の前月比をみると、10業種で上昇し、9業種で下降した。		
雇用動向	有効求人倍率は、季節調整値が前月を0.08ポイント上回り、原数値が前年を0.01ポイント上回った。一方、雇用保険受給者実人員は前年を1.6%下回った。		

注：「変化方向」は前月と比較した現在における景況の変化方向（：改善、：不変、：悪化）、「水準」は現在における景況の水準をそれぞれ示す。「変化方向」は当月と前月における3ヵ月加重移動平均の前年同期比の比較、「水準」は当月の3ヵ月加重移動平均値と過去5年間の平均値の比較により、それぞれ判断している。ただし、「変化方向」が改善または悪化の場合でも、「水準」が変わらない場合もある。したがって、足元の動向を示す「コメント」と「景況判断」は異なる場合もある。なお、公共投資および設備投資は6ヵ月加重移動平均値による判断、民間・非居住用建築着工および鉱工業生産指数は3月データ。

〈天気図（水準）の意味〉

晴れ	晴れ一部曇り	曇り	曇り一部雨	雨

良
い
悪
い

2. 県内経済動向の概要

(1) 前年同月比

(単位：%)

	項 目	前 年 同 月 比					
		27年11月	12 月	28年1月	2 月	3 月	4 月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	0.8	2.2	4.1	4.1	r 1.2	P 2.3
	乗用車新車登録台数	△ 6.4	△ 14.3	0.7	△ 1.5	△ 13.8	2.3
公共投資	公共工事前払保証取扱保証請負金額	73.8	△ 42.6	44.2	△ 75.5	△ 16.0	△ 22.9
設備投資	建設着工工事費予定額（民間・非居住用）	77.9	1.5	△ 33.5	△ 4.6	△ 59.8	—
住宅投資	新設住宅着工戸数	△ 8.3	3.5	39.3	18.4	53.6	49.6
生産活動	鉱工業生産指数（総合）	0.0	△ 6.6	△ 2.1	△ 0.6	△ 5.1	—
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）	△ 0.04	△ 0.05	△ 0.04	△ 0.04	△ 0.03	0.01
	雇用保険受給者実人員	3.5	△ 1.1	0.0	2.1	1.3	△ 1.6

注 鉱工業生産指数と有効求人倍率は原指数。Pは速報値、rは訂正值。

(2) 前月比

(単位：%)

	項 目	前 月 比					
		27年11月	12 月	28年1月	2 月	3 月	4 月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	△ 1.0	27.5	△ 17.1	△ 9.0	r 9.3	P △ 5.0
	乗用車新車登録台数	4.7	△ 13.0	13.8	14.6	45.6	△ 48.2
公共投資	公共工事前払保証取扱保証請負金額	△ 17.9	△ 20.7	29.8	△ 61.0	236.1	△ 14.3
設備投資	建設着工工事費予定額（民間・非居住用）	△ 38.7	△ 25.2	△ 26.8	19.5	△ 57.4	—
住宅投資	新設住宅着工戸数	△ 15.3	21.7	△ 23.2	16.3	8.7	28.0
生産活動	鉱工業生産指数（総合）	0.3	△ 2.5	7.8	△ 3.6	△ 1.9	—
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）	0.02	0.03	△ 0.02	△ 0.03	△ 0.06	0.08
	雇用保険受給者実人員	△ 5.7	△ 1.7	△ 1.5	2.5	0.9	△ 4.5

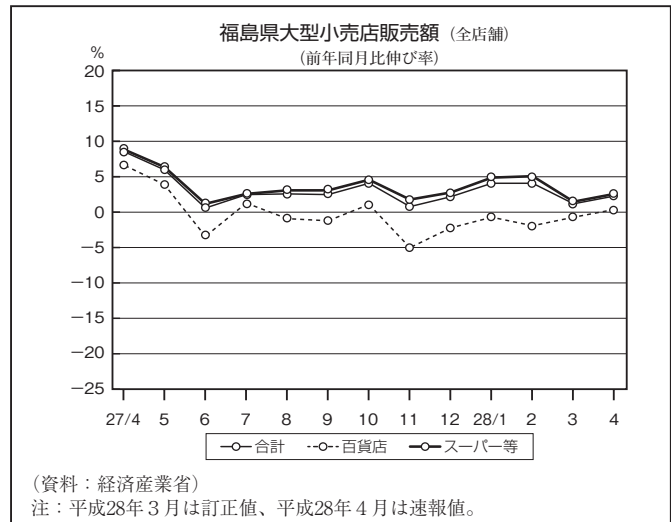
注 鉱工業生産指数と有効求人倍率は季節調整値。Pは速報値、rは訂正值。

3. 県内経済動向

消費動向

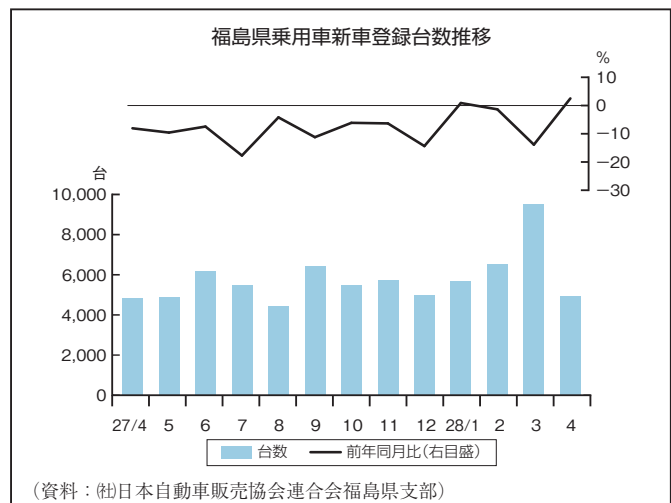
大型小売店：13ヵ月連続で前年比増

4月の県内大型小売店の販売額（全店舗ベース、速報値）は、合計で203億42百万円（前年同月比+2.3%）と13ヵ月連続で前年を上回った。業態別でみると、百貨店は、衣料品が前年を下回ったものの、飲食料品が前年を上回ったことなどから、合計では同+0.4%となった。また、スーパーも、飲食料品が前年を上回ったことなどから、合計では同+2.6%となった。



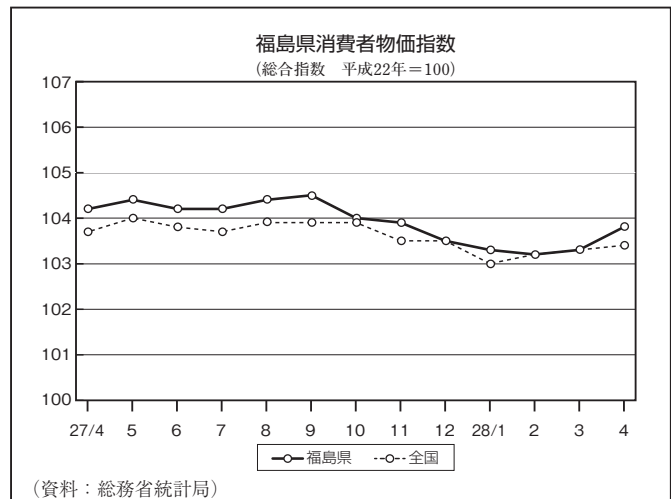
乗用車販売：3ヵ月ぶりで前年比増

4月の乗用車新車登録台数（ナンバーベース）は、合計で4,919台（前年同月比+2.3%）となり、3ヵ月ぶりで前年を上回った。車種別でみると、普通車が1,632台（同+29.0%）と2ヵ月ぶりで前年を上回った。一方、小型車が1,553台（同△4.8%）と4ヵ月連続、軽乗用車が1,734台（同△9.3%）と16ヵ月連続でそれぞれ前年を下回った。



消費者物価指数：前年比で下降、前月比で上昇

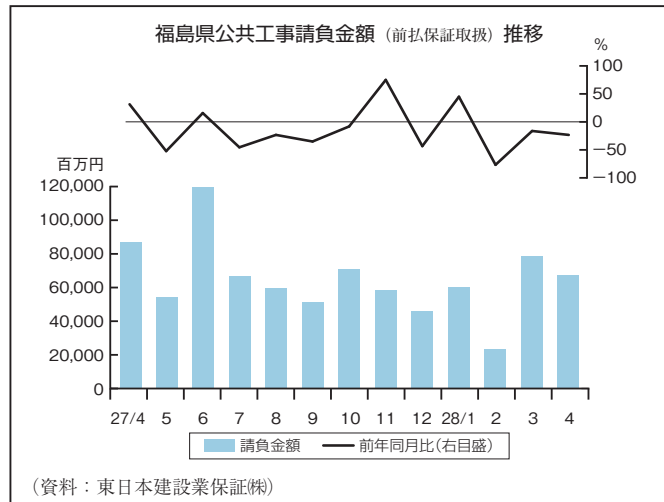
4月の消費者物価指数は、総合指数（福島市、平成22年=100）でみると、103.8で前年同月比△0.3%、前月比+0.5%となった。費目別に前月比でみると、「被服・履物」が108.4（前月比+4.4%）など9費目で上昇したものの、「光熱・水道」が104.6（同△0.8%）と下降した。



公共投資

公共工事：請負額は3ヵ月連続で前年比減

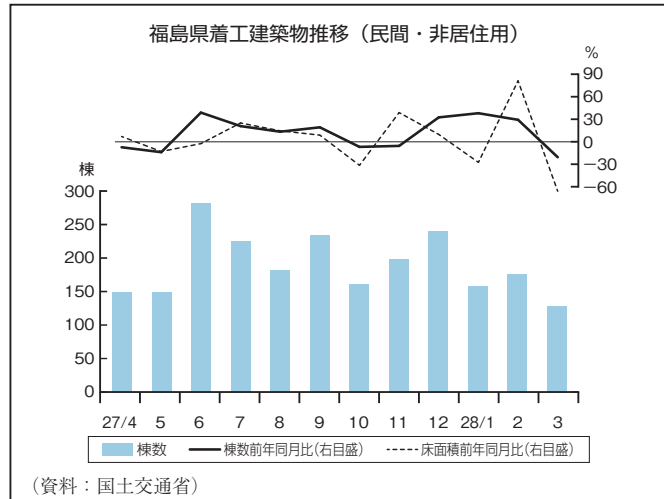
4月の公共工事前払保証取扱は、件数が513件（前年同月比+15.3%）と3ヵ月連続で前年を上回ったものの、保証金額が300億45百万円（同△21.4%）、請負金額が677億14百万円（同△22.9%）と3ヵ月連続でいずれも前年を下回った。



設備投資

設備投資：工事費予定額が3ヵ月連続で前年比減

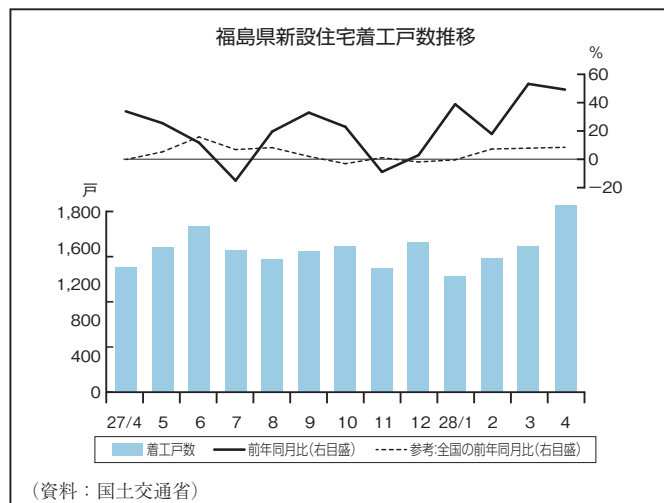
3月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数が127棟（前年同月比△20.6%）と4ヵ月ぶり、床面積が30,638㎡（同△65.4%）と2ヵ月ぶり、工事費予定額が59億75百万円（同△59.8%）と3ヵ月連続でそれぞれ前年を下回った。



住宅投資

住宅建設：5ヵ月連続で前年比増

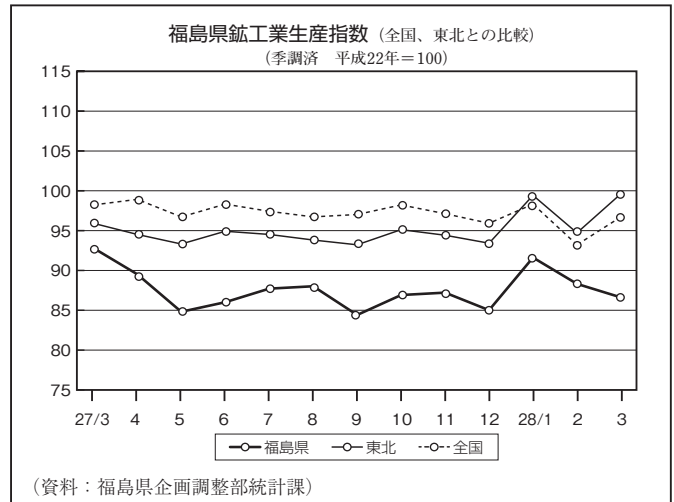
4月の県内新設住宅着工戸数は、1,863戸（前年同月比+49.6%）と5ヵ月連続で前年を上回った。主な利用関係別にみると、「持家」が664戸（同+30.2%）と3ヵ月連続、「分譲」が206戸（同+51.5%）と8ヵ月連続、「貸家」が990戸（同+66.1%）と5ヵ月連続でそれぞれ前年を上回った。



生産活動

鉱工業生産指数：前年比、前月比とも下降

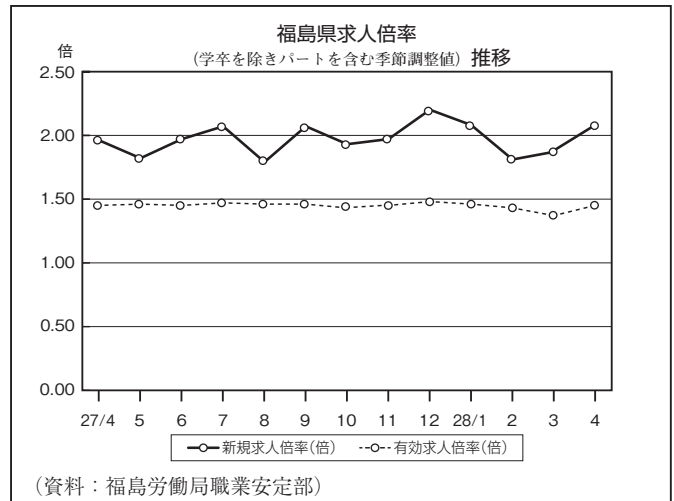
3月の鉱工業生産指数は、86.6（季節調整値）で前月比△1.9%と2ヵ月連続で前月を下回り、原指数が95.8で前年比△5.1%と4ヵ月連続で前年を下回った。業種別の季節調整値をみると、「印刷業」（前月比+19.5%）など10業種で上昇したが、「化学工業」（同△27.1%）など9業種で下降した。



雇用動向

雇用動向：雇用保険受給者は前年比減

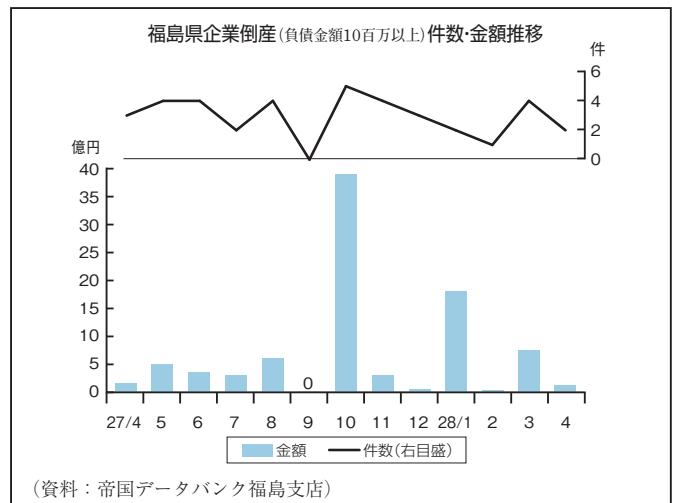
4月の新規求人倍率は、季節調整値が2.07倍（前月比+0.20ポイント）、原数値が1.60倍（前年同月比+0.12ポイント）となった。また、4月の有効求人倍率は、季節調整値が1.45倍（前月比+0.08ポイント）、原数値が1.31倍（前年同月比+0.01ポイント）となった。また、4月の雇用保険受給者実人員は5,697人（前年同月比△1.6%）で前年を下回った。



企業倒産

企業倒産：件数、金額とも前年比減

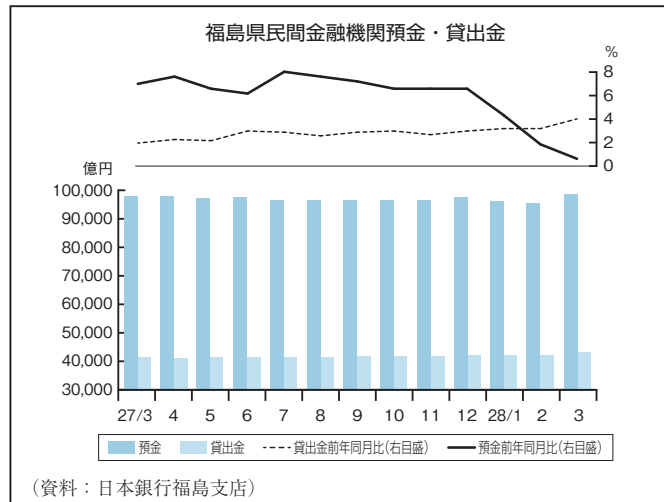
4月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、件数が2件（前年同月比△33.3%）、負債総額が1億10百万円（同△19.7%）となり、件数、負債総額とも前年を下回った。業種別では、サービス業とその他が各1件となった。



金融動向

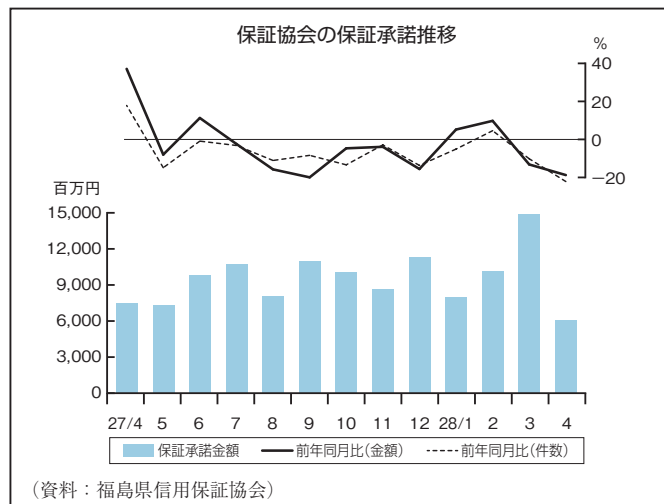
資金需給：預金、貸出金とも前年比で増加

県内金融機関（全国銀行、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の3月末の預金残高は、9兆8,735億円（前年同月比+0.6%）と9年1ヵ月連続、貸出金残高は、4兆3,105億円（同+3.9%）と34ヵ月連続で前年を上回った。



保証協会：代位弁済は件数が前年比増

4月の保証承諾は、件数が553件（前年同月比△22.0%）、保証金額が60億41百万円（同△18.9%）となった。また、4月末日現在の保証債務残高は、件数41,057件（同△7.3%）、金額3,584億80百万円（同△8.4%）となった。一方、4月中の代位弁済は、件数が13件（同+116.7%）、金額が30百万円（同△19.9%）となった。



4. 業種別動向

消費動向

家電量販店 4月の家電量販店の売上高は、スマートフォンやエアコン、冷蔵庫などが前年を上回ったことから、合計では前年を5%ほど上回った。
ホームセンター 4月のホームセンターの売上高は、園芸や日用品などが前年を上回ったものの、作業用品や医薬品・健康食品などが前年を下回ったことから、合計では前年並みにとどまった。
旅行 4月の旅行取扱額は、国内が前年並みだったものの、ジカ熱などの影響で不調だった国外が前年を上回ったことから、合計では前年を5%ほど上

回った。
高速道路 4月の県内自動車道出入台数は、合計で5,443,972台（前年同月比+5.6%）と、17ヵ月連続で前年を上回った。路線別にみると、常磐自動車道（いわき勿来IC～山元IC）は1,845,093台（同+18.2%）と26ヵ月連続、東北自動車道（白河IC～国見IC）は2,609,828台（同+1.2%）と3ヵ月連続でそれぞれ前年を上回った。一方、磐越自動車道（いわき三和IC～郡山東IC）は422,339台（同△3.1%）と3ヵ月ぶり、磐越自動車道（磐梯熱海IC～西会津IC）は566,712台（同△2.0%）と4ヵ月連続で前年を下回った。
福島空港 4月の福島空港国内定期路線の利用状況は、18,892人（前年同月比+7.6%）と前年を上回っ

た。路線別にみると、札幌便は4,212人（同+16.0%）、大阪便は14,680人（同+5.4%）となった。（国際定期路線は全便運休）

生産活動

※企業ヒアリングによる結果

化学 4月の食品包装フィルム用合成樹脂は、中国向けの供給過剰による影響で、価格が低下していることなどから、合計では前年をやや下回る生産が続いている。

鉄鋼・金属 4月の伸銅品の生産は、自動車向け端子材が海外受注の下支えにより、前年を10%以上上回る生産水準となった。一方、半導体向け電子材は、国内および中国など国外からの受注が減少していることから、前年を10%ほど下回る生産となった。4月の建機用鋳造品は、中国からの受注減少が続いていることなどから、前年を20%以上下回る生産となった。陸船用バルブは、海外製品との競合などから、受注量の減少が続いているものの、国内受注の単価上昇などから、生産額では前年をわずかに上回った。

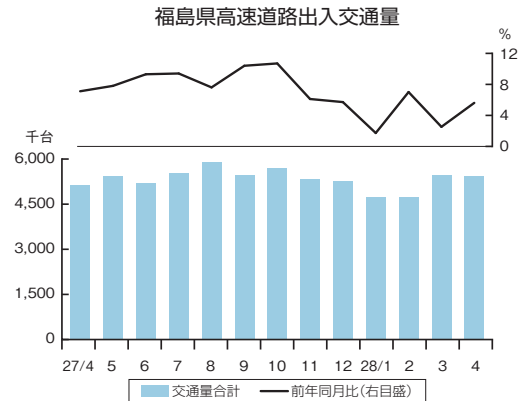
輸送用機械 4月の鋳造品は、トラック用では、インドネシアなどの新興国による受注が減少しており、合計では前年を5%程度下回る生産となった。また、オイルシールも、国内の自動車販売市場にやや明るさが見え始めたことなどから、全体では計画並みの生産となった。

電気機械 4月の電気機械の生産は、モーターが前年を下回ったものの、誘導炉や変圧器、配電盤が増加したことから、合計では前年を10%以上上回った。

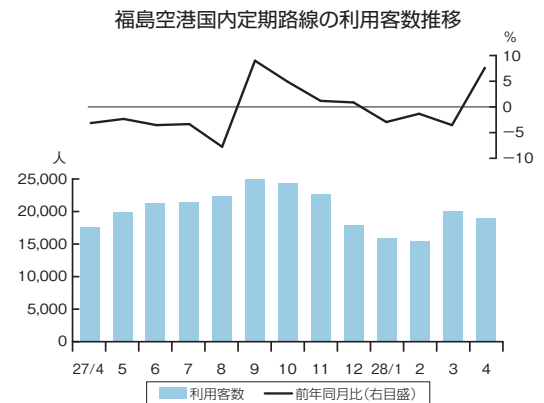
情報通信機械 4月の情報通信機械の生産は、国内向けモバイル基地局が前年並みだったものの、国外向けマイクロ波通信装置（携帯電話の中継局）の落ち込みが大きく、合計では前年を30%ほど下回った。

電子部品・デバイス 4月のLSI（大規模集積回路）の生産は、前年を20%ほど上回った。

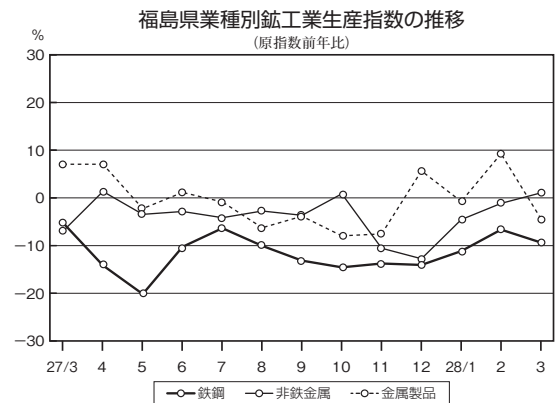
精密機械 4月の医療用内視鏡は、欧米向け高付加価値製品および国内向け新製品の生産が堅調に推移しており、合計では前年を5%ほど上回る生産水準



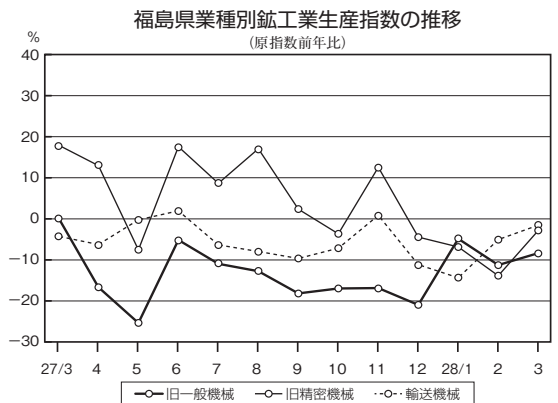
(資料：東日本高速道路(株)東北支社)



(資料：福島県商工労働部空港交流課)



(資料：福島県企画調整部統計課)



(資料：福島県企画調整部統計課)

となった。一方、デジタル一眼レフカメラ用レンズは、国外からの受注が伸び悩んでいるものの、国内からの受注がやや上向いたことから、全体では前年並みの生産水準となった。

窯業・土石 4月の生コンクリート出荷量は、全体で157,169m³（前年同月比△10.7%）と2ヵ月連続で前年を下回った。民需・官公需別にみると、官公需は6地区すべてが前年を下回り、合計で同△27.7%となった。一方、民需は県中といわきを除いた4地区が前年を上回ったことから、合計で同+1.8%となった。

紙・紙加工品 4月の製紙は、感熱紙を中心に輸出が引き続き伸びていることなどから、合計では前年を10%ほど上回る生産水準となった。

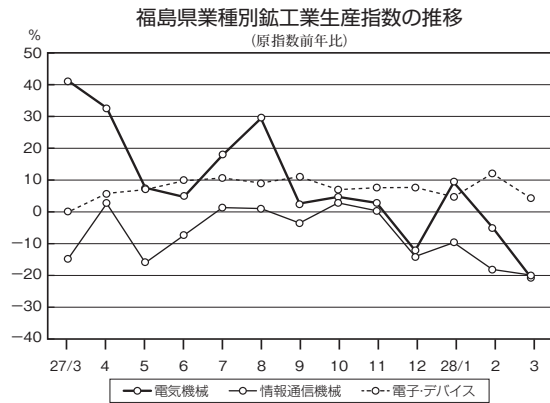
清酒 4月の清酒移出数量は、1,245kL（前年同月比△2.9%）と4ヵ月ぶりで前年を下回った。酒類別では、一般酒（特定名称酒以外の酒）が612kL（同△10.3%）と7ヵ月連続で前年を下回ったが、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）は633kL（同+5.5%）と13ヵ月連続で前年を上回った。

化合繊維物 4月の化合繊維物は、単価の低下とともに、生産量が前年を5%ほど下回ったことから、生産額は前年を15%ほど下回った。

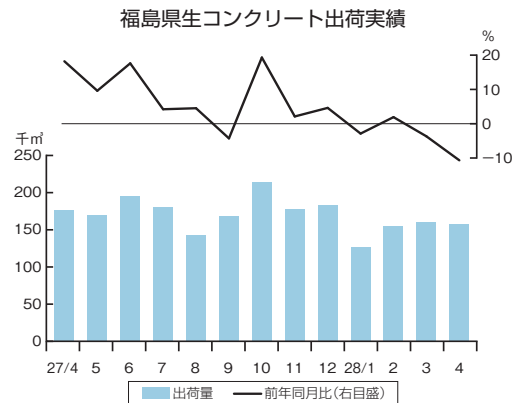
ニット 4月のニットは、秋冬物サンプルを中心に安定した受注を維持していることに加え、単価の高い製品の割合が上昇したことなどから、生産額は前年を30%ほど上回った。

電灯電力 4月の電灯電力販売量は、1,154百万kWh（前年同月比△3.7%）となり、9ヵ月連続で前年を下回っている。

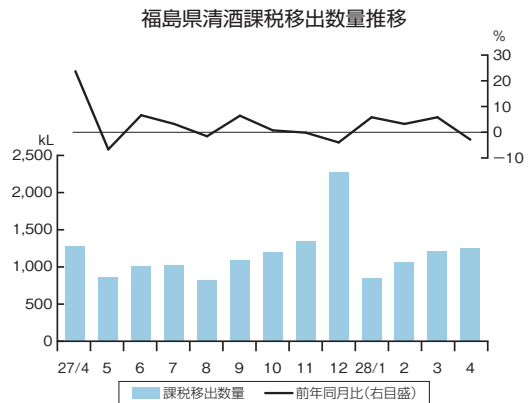
※データ提供元の都合により、産業別および全産業の大口電力販売量が非公表となるのに伴い、今月号から全産業の電灯電力販売量を掲載いたしますので、ご了承願います（74ページ「主要経済指標」も同様です）。尚、電灯はOA機器や照明、一般家電製品向け、電力は工作機械類などの動力を示しています。



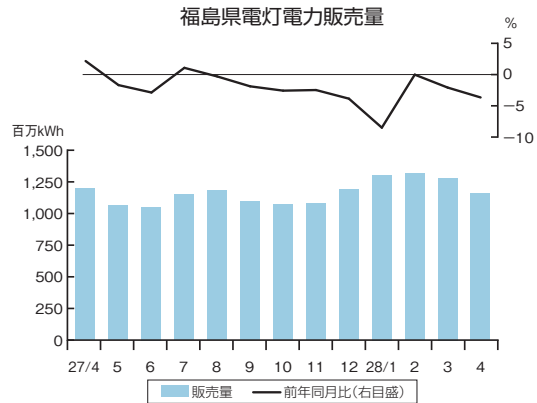
(資料：福島県企画調整部統計課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)



(資料：福島県酒造組合)



(資料：東北電力福島支店)